

節分

2月2日、コロナ禍で迎えた節分。鬼とのソーシャルディスタンスをとりながらの実施となりました。幼児さんたちは段ボールで作られた鬼を見て「怖くない」と平気そうな顔。しかし背後から鬼に扮した職員が出てくると一斉に逃げ出しました。怖い鬼に「鬼は外」と必死に応戦。最後は、いい子で過ごすことを鬼と約束して無事に追い払う事に成功しました。

小学生以上の子たちは段ボールで作られた鬼の口に「鬼は外・福は内」と力いっぱい豆の代わりにピンポン玉をぶつけていました。開けられた口にボールが入られるかというゲーム感覚を味わいながら全員無事に鬼退治をすることができました。子どもたちのパワーで鬼とともにコロナウイルスが退治されればいいなと思います。

(児童指導員 山梨綾)



おやつ

3月13日、春休みを目前にした土曜日、いつもと違った特別なおやつ会が計画されました。

事前に児童が、好きなドーナツ一つに加え、プリンとソフトクリームのどちらかを選択する形でおやつを選びました。子どもたちもよく知る人気のお店のメニューです。中学生の男の子が「(計画してくれて) ありがとう!!」と職員に声をかける姿がありました。喜びと感謝を素直に表現してくれる姿にこちらこそ「ありがとう」と伝えました。

もうすぐみんなで引越しです。新しい環境で、この日のように希望が叶う喜びがたくさん味わえる新生活を迎えたいです。

(保育士 後藤圭介)



HAPPY VALENTINE'S DAY!

今年のバレンタインデーは、新型コロナの影響で、いつものように子どもたちで準備したチョコレートを友だちに配るといったイベントが行えなかった為、チロルチョコを時間内で積み上げ、その数が一定数を超えると景品が貰えるというイベントを企画しました。

最初はただチロルチョコを積み上げるだけというイベントがどれだけ盛り上がるのか不安でしたが、始めてみるとどうしてどうして、職員が思った以上に子どもたちの方で盛り上がってくれました。

中高生たちは景品を貰うことはそっちのけで、誰が一番積めるかを競いだし、積み上げたチョコレートを倒す度「あー！」と悲鳴を上げ盛り上がっていました。とても楽しいバレンタインの思い出になりました。

(児童指導員 岡雅代)



ひな祭り

桃の節句にホールにおひな様を飾りました。少し華やかになった空間に春の訪れを感じます。飾り始めると子どもたちは近くに駆け寄りまじまじと見たり、ピアノでおひな様の曲を弾いたりしていました。一方、夜になって少し不気味な雰囲気醸し出しているおひな様を怖がっている子も…。夕食にはちらし寿司を頂き、味覚でも楽しむことができました。来年はユニットごと、よりあたたかいお祝いができるようにしたいです。

(保育士 山田琴音)



わかなでの生活

地域小規模施設わかなも2年目がスタートしました。

新たな児童もわかなへの引っ越しが完了して数日経ち、新学期もスタートしました。今年度は小学生2名、中学生1名、高校生3名の6名で、より家庭に近い生活をしています。新型コロナウイルスの影響が続くなか、子どもたちは、テレビを見たり、学校の課題を進めていく中で、料理や洗濯、掃除など積極的にお手伝いをしてきて日々感謝と成長を感じています。

また春休み中には普段体を動かす事が出来ない生活の中でしたが、公園でテニス、バドミントン、サッカー、キャッチボールをし、児童6名・職員2名で1日体を動かしました。子どもたちは筋肉痛が直ぐ来ていましたが1日遅れで感じた私は若さには勝てないと痛感しました。

(保育士 瀬戸純也)

